

暮らしを vol.12  
やさしくする  
エコな気持ち

枝廣淳子 イラスト●福々ちえ



森の声に耳を傾けよう！

森は自然界の大切な恵み



最近、森や山に出かけましたか？「うーん、いつ行ったっけ……」という人も多いかもしれませぬ。ひと口で「森」といっても大きく分けて2種類。人の手が入ったことのない天然林。一度、木を伐ったあとに、人が木を植えて育てている人工林。濃淡のついたさまざまな木がこんもりしているのは、天然林や雑木林。同じ種類の木がきちんと並んでいるのは、人工林。手つかずの天然林は、世界中で減っているので伐らずに守っていききたい。

他方、世界的には、森林の消失が大きな問題です。1990〜2010年までに世界で失われた森林の面積はどのくらいだと思いますか？なんと、日本の国土の4倍！それほどの面積の森林が、この20年間に世界から姿を消しているのだそうです。

先進国の森林面積は同じか、若干増えている一方、森林減少の大部分は途上国で起こっています。森林が減少するということは、それまで森林や土壌に蓄積されていた二酸化炭素が大気中に排出されるということでもあります。途上国の森林減少から排出する二酸化炭素の量は、世界の温室効果ガス排出量の約2割を占めるほどの膨大な量になっています。

温暖化防止を進める世界の取り組みの中では、現在、「森林の減少・劣化に由来する排出の減少」も対象にしようと、交渉が進められています。このように森林は、「二酸化炭素を吸収して温暖化を防ぐから」など、大切なものをどうやって守っていくべきか、と国際的にも議論が進められ、いろいろな仕組みが提案・推進されています。

『いのちの網の目』を探しに

でも、考えてみれば、森林や木は、人間がこの世界に登場するずっと前から存在していました。別に、「人間のために」ではないのです。1本1本の木が私たちと同じように、1つの「いのち」として生きています。

屋久島に生えている屋久杉の中でも最長老の「縄文杉」は7200歳くらいだと聞いたことがあります。屋久島の杉は、1000歳以上になると「屋久杉」と呼んでもらえますが、1000歳未満は、「小杉」と呼ばれているんですって。

せいぜい数十歳の私たちなんて屋久杉に比べたら赤ちゃんみたいなもの。数千年のスパンで地球と人間の歴史をずっと見ながら、何を思っているのでしょうか。

特にこの100年間に地球の姿は大きく変わりました。人口

増加や経済発展のために、多くの森林が切り開かれ、道路や工場に変えられ、地上の多くの緑が茶色に変わりました。二酸化炭素や有害物質がモクモクと撒き散らかされ、地上に住んでいる多くの動物や植物が絶滅して消えている様子を、縄文杉はどう見ているのでしょうか。

森は、木だけではなくたくさんの植物や動物、虫やバクテリアたちが「いのちの網の目」を広げている場所。たまには、いろいろな仲間たちに会いに行きませんか？



えだひろ じゅんこ  
環境ジャーナリスト、翻訳家。東京大学大学院教育心理学専攻修士課程修了。(有) イーズ代表、幸せ経済社会研究所所長、(有) チェンジ・エージェント会長、NGO ジャパン・フォー・サステナビリティ代表。講演、執筆、翻訳等の活動を通じて、「伝えること、つなげること」のうねりを広げつつ、変化を創り出す仕組みを研究。主な著訳書に『地球のなのおし方』『「エコ」を超えて-幸せな未来のつくり方』『不都合な真実』『私たちの選択』などがある。  
(<http://www.es-inc.jp/>)